

2026年1月11日午前10時30分

降誕節第3主日 主日礼拝

司会 岡安茂能
奏楽 川名ひさ子

讃美歌・詩編交誦・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のまき)

前奏

招きのことば 詩編 149:1-5

讃美歌 277(1-3)「罪なき神の子」

交誦詩編 36:6-10(P.43/39)

祈り

『関東教区お祈りカレンダー』

(主の祈り)

讃美歌 277(4-6)「荒れ野にいでゆき」

聖書 旧約:出エジプト 14:15-22(P.116)

新約:マルコ 1:9-11(P.61)

メッセージ『水を通じて救われる』

祈り

川上 盾 牧師

讃美歌 404「あまつましみず」

献金

(献金感謝の祈り)

信仰告白(イドネシアの信仰告白②)

頌栄 312(5)

祝祷

後奏

報告・紹介

＜招きのことば＞ 詩編 149:1-5

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。イスラエルはその造り主によって喜び祝い、シオンの子らはその王によって喜び躍れ。踊りをささげて御名を賛美し、太鼓や豊琴を奏でてほめ歌をうたえ。主は御自分の民を喜び、貧しい人を救いの輝きで装われる。主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み、伏しても喜びの声をあげる。

《1月礼拝当番》 伊藤普史 徳島恵子
村上直子 斎藤眞理子
横田喜一 横田こずえ

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日 9:15 CS朝礼拝
- ◎ 本日-12日 牧師『平和種まきフェスティバル』(東京)
- ◎ 15日(木) 10:30 婦人会例会
- ◎ 17日(土) 10:00 会堂清掃 D組

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『主の招く声』

聖書: 旧約:エレミヤ書 1:4-10(P.1172)

新約:マルコ 1:14-20(P.61)

讃美歌 14, 195, 516, 28

交誦詩編 100:1-5(P.113/109)

司会: 伊藤普史 奏楽: 金井文子

◎ 群馬地区教会協議会 1/18(日)15:30

内容: 兼牧について学び語り合う／高崎教会

《予告》

- ◎ CS午後礼拝 25日(日) 13:30
- ◎ 紅雲町集会 29日(木) 10:30

《報告》

◎ 次週、教会協議会「兼牧について」

新潟地区より、実際に兼牧による教会活動をしておられる三条教会から牧師・信徒を招き、兼牧の実際について聞き、語り合います。どなたでも参加できます。15:30より高崎教会にて。

◎ 関東教区 雪堀りツア (2/18-22)

恒例の雪堀ツアーが今年も開催されます。十日町教会を拠点に雪堀りで汗を流し、「人のために働くこと」「共に生きること」を学びます。このツアー参加者から教会の災害支援ボランティアーカーが生み出されている有意義なプログラムです。詳しくは掲示板の案内をご覧下さい。

◎ 1月役員会報告 (抄)

①12月教会行事の反省…*クリスマス関係の行事の際には、駐車場をうまく詰めるための誘導係が必要 *キャンドルサービスの最後の燭台を置く時や、葬儀の最後の献花の時には、誘導係が必要。 *クリスマス献金からの対外献金先は10万円の予算で案分する。

②創立140周年に関する件 … *記念イベントの候補として、(a) 萬田緑平さん(終末医療)、(b) 故中村哲さん(ペシャワール会)のスタッフ、(c) 戦争の語り部、といった意見が出されている。 *140年誌は各担当者に執筆をうながす。

*案内看板・パンフレットのリニューアルは、ホームページの構成とも連動して考える必要がある。 *記念募金は、大枠として500万円(記念事業100万、屋根改修の一部費用400万)、3年間の募集期間として考えている。 // 以上のことと1月18日の礼拝後に報告し、意見を求める。

③群馬地区総会議員(3/15) 植松みよ

④その他…会計用に必要なノートパソコン(9万円)を購入する。 (文責=川上)

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	57	24	29,350
昼(夜)	計		
聖研祈祷会	10	5	15

《メッセージ》「視点の転換」

ゼカリヤ8:1-8、ルカ2:41-52(1月4日)

▼「エルサレムには老爺・老婆が座し、わらべとおとめが溢れ、広場は笑いざめく」。2026年最初に朗読された聖書の言葉である。昨年のクリスマス礼拝前後、前橋教会はまさにこの言葉の通りの光景に包まれた。教会員の召天、それによる会員の減少…教会の将来に不安を感じさせられる出来事もあるが、そんな現状を嘆くのではなく、そんな中にも笑い声を導き出して下さる神への信頼を抱き、新たな年を始めたい。▼先日見たパレスチナの現実を描いたドキュメンタリー映画の中で、爆撃される現地で活動を続ける女性フォトジャーナリストが「この状況にも神が与えられる意味がある」と語ったシーンで、宗教は違うが信仰の強さを感じた。それは「視点の転換」を持つことができる強さである。▼最近私は、この「視点の転換」こそが信仰の重要なポイントではないかとの思いを強めている。人生の危機・ピンチの時に「自分中心」の視点しか持てないでいると、危機は重くのしかかる。しかしそこで視点を転換して、「世界の中の自分」と世界中心・神中心で受けとめる時に、行き詰った心に風穴が開けられる…そんな風にして、過酷な現実の中をそれでも押しつぶされずに生きる「強さ」が与えられるのである。▼新約はイエスの少年時代のエピソード。ユダヤ教最大のお祭り・過越祭に一家で参加した帰り道、ばぐれてしまったイエスを捜して母・父が右往左往する姿が描かれる。3日目になって(!)やっとイエスを見つけると、イエスは神殿で学者たちと語り合っていたという。夢中になつた少年は後先忘れて行動することがよくある。イエスもそんな少年の一人なのであった。▼見つけたマリアは「なぜこんなことをしてくれたのです? みんなが心配して捜しているのに…」そう言ってイエスを非難する。するとイエスは答えられた。「どうして捜すんです? 私が父の家にいることを知らなかつたのですか?」な・なんと生意気な! …そういう思ひだろか。しかしこの言葉が示すのは、イエスの神に対する大きな信頼である。▼イエスを捜す両親は「自分の視点」から抜け出られない。だから息子がいなくなつたことによって慌てふためく。しかしイエスは「どこにいても、私たちは神の大きな守りの中にいる」と言われる。この答えこそ「視点の転換」である。▼成長したイエスは「空の鳥、野の花を見よ。明日のことを思いわづらうな」と教えられた。私たちは毎日の暮らしのことでつい「思いわづらってしまう」。なぜだろか? それは「自分にとっての明日/世界」、すべてをそのように考えているからではないだろか。けれども、そのような「自己中心性」から離れるのは難しい。▼それを変えてくれるのが信仰だ。「自分にとっての世界/神さま」ではなく、「世界の中の自分、神さまあっての自分」…そんな風に認識そのものをひっくり返してくれる。「自分中心」から「世界/神さま中心」へと変えられていぐ時、思い悩みから解放されるのだ。